

## 再評価書

事業名	的矢港海岸高潮対策事業		事業区分	海岸事業		課名	港湾・海岸課																																	
事業概要	工期	S61年～H33年	全体事業費 (下段：前回)	5,060百万円(負担率：国1/2：県1/2)		課名	港湾・海岸課																																	
	(下段：前回)	S61年～H33年		5,060百万円(負担率：国1/2：県1/2)																																				
事業目的及び内容																																								
<p>的矢港海岸は、志摩市の北東部に位置し、紀伊半島の東部海岸に発達する典型的なリアス式海岸により形成された優れた景観を有しております。海域では養殖筏が数多く浮かび風光明媚な海岸となっています。しかし、海岸の背後は山地がすぐ迫っており、限られた平地に人家が密集しています。</p> <p>当海岸の海岸保全施設は伊勢湾台風後の築造から50年程度が経過し老朽化が著しく、背後地の住民から一刻も早い施設整備が望まれているところです。当該事業は、この護岸の補強を行うことにより、波浪や高潮等による災害を防除し、護岸背後の生命と財産を守る事業です。事業計画期間は昭和61年度から平成33年度完了予定であり、全体事業費は約50億60百万円で計画しています。</p>																																								
<p><b>【事業概要】</b></p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 20%;">(的矢地区)</td> <td style="width: 10%;">S61～H33</td> <td style="width: 10%;">護岸(補強)</td> <td style="width: 10%;">L=1,373m</td> <td style="width: 10%;">H18</td> <td style="width: 10%;">陸閘(改良)</td> <td style="width: 10%;">7基</td> <td style="width: 10%;"></td> </tr> </table>								(的矢地区)	S61～H33	護岸(補強)	L=1,373m	H18	陸閘(改良)	7基																										
(的矢地区)	S61～H33	護岸(補強)	L=1,373m	H18	陸閘(改良)	7基																																		
<b>事業主体の再評価結果</b>																																								
<p><b>1 再評価を行った理由</b></p> <p>平成19年度に再評価を実施後、一定期間である5年が経過し、なお継続中ですので三重県公共事業再評価実施要綱第2条に基づき再評価を行いました。</p>																																								
<p><b>2 事業の進捗状況と今後の見込み</b></p> <p>(事業の進捗状況)</p> <p>的矢地区につきましては、事業費50億6千万円に対しまして約36億1千万円が施工済みとなり、進捗率約71%となります。</p>																																								
<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th rowspan="2">地区名</th> <th rowspan="2">工種</th> <th colspan="2">全 体 計 画</th> <th rowspan="2">全体事業費 (単位:千円)</th> <th rowspan="2">施工済額 (単位:千円)</th> <th rowspan="2">残事業費 (単位:千円)</th> <th rowspan="2">進捗率</th> </tr> <tr> <th>全 体</th> <th>整備済み</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">的矢地区</td> <td>護岸(補強)</td> <td>(1,373 m) 1,373 m</td> <td>(908 m) 1002 m</td> <td>(4,910,000) 4,910,000</td> <td>(2,810,700) 3,459,290</td> <td>(2,099,300) 1,451,000</td> <td>(57.2%) 70.5%</td> </tr> <tr> <td>陸閘(改良)</td> <td>(7 基) 7 基</td> <td>(7 基) 7 基</td> <td>(150,000) 150,000</td> <td>(150,000) 150,000</td> <td>(0) 0</td> <td>(100.0%) 100.0%</td> </tr> <tr> <td colspan="4" style="text-align: right;">全 体</td><td>(5,060,000) 5,060,000</td><td>(2,960,700) 3,609,000</td><td>(2,099,300) 1,451,000</td><td>(58.5%) 71.3%</td></tr> </tbody> </table>								地区名	工種	全 体 計 画		全体事業費 (単位:千円)	施工済額 (単位:千円)	残事業費 (単位:千円)	進捗率	全 体	整備済み	的矢地区	護岸(補強)	(1,373 m) 1,373 m	(908 m) 1002 m	(4,910,000) 4,910,000	(2,810,700) 3,459,290	(2,099,300) 1,451,000	(57.2%) 70.5%	陸閘(改良)	(7 基) 7 基	(7 基) 7 基	(150,000) 150,000	(150,000) 150,000	(0) 0	(100.0%) 100.0%	全 体				(5,060,000) 5,060,000	(2,960,700) 3,609,000	(2,099,300) 1,451,000	(58.5%) 71.3%
地区名	工種	全 体 計 画		全体事業費 (単位:千円)	施工済額 (単位:千円)	残事業費 (単位:千円)	進捗率																																	
		全 体	整備済み																																					
的矢地区	護岸(補強)	(1,373 m) 1,373 m	(908 m) 1002 m	(4,910,000) 4,910,000	(2,810,700) 3,459,290	(2,099,300) 1,451,000	(57.2%) 70.5%																																	
	陸閘(改良)	(7 基) 7 基	(7 基) 7 基	(150,000) 150,000	(150,000) 150,000	(0) 0	(100.0%) 100.0%																																	
全 体				(5,060,000) 5,060,000	(2,960,700) 3,609,000	(2,099,300) 1,451,000	(58.5%) 71.3%																																	
<p style="text-align: right;">上段 0 : 前回再評価時点 下段 : H24再評価時点</p> <p>(今後の見込み)</p> <p>今後の整備区間は作業環境が厳しく、財政状況についても厳しい状況が予想されますが、地元住民からの要望も強く、引き続き事業の進捗を図り平成33年度の完成を目指しております。</p>																																								
<p><b>3 事業を巡る社会経済状況等の変化</b></p> <p>的矢港海岸の地形条件として、海と山に挟まれた限りある平地に家屋などが密集し、住民にとって護岸は生命線であることから、護岸の老朽化に対して危機感を抱いています。</p> <p>また、近年の異常気象に伴う台風の大型化などが懸念されています。</p> <p>さらに、住民の危機管理意識が向上しており、護岸補強の早期完了を望む声は、一層高まっています。</p>																																								

#### 4 事業採択時の費用対効果分析の要因の変化、地元意向の変化等

##### 4-1 費用対効果分析

平成19年度に行いました的矢地区の再評価時の費用対効果分析結果は3.73でした。

今回の再評価にあたり、平成24年度時点の費用対効果分析結果は3.29となっております。

B(便益) = 約250億円 (H19再評価時 約223億円)

C(費用) = 約 76億円 (H19再評価時 約 60億円)

B/C = 3.29 (H19再評価時 3.73 )

##### 4-2 地元意向

護岸の老朽化及び沈下対策はもとより、近年の台風の大型化や集中豪雨の多発等、相次いで発生する異常気象に対応すべく、早期での整備完了が望まれています。

#### 5 コスト縮減の可能性や代替案立案の可能性

##### 5-1 コスト縮減

複雑なリアス式海岸であるという地形条件に配慮し、詳細な土質調査を実施し、その調査結果を踏まえて、設計工区を細分化し、工区別に比較検討を行い、より経済的な断面を採用するなど、設計時において可能な限りコストの縮減に取り組んでいます。

##### 5-2 代替案

当地区では、護岸の前面海域に養殖筏が係留されていることから、高潮対策施設として沖合に離岸堤や人工リーフなどを設置できません。また、堤防は広い堤体盛土の設置スペースが必要となるため、海岸施設と人家が隣接している当地区でのスペース確保は困難です。

このため、当地区における高潮対策施設は護岸以外には考えられず、現計画で整備を進めることが妥当であると判断しています。

#### 再評価の経緯

当事業は、平成19年度に答申された再評価審査委員会の意見に対する取り組みを次のとおり行っています。

(答申)

・事業継続の妥当性が認められたことから事業継続を了承する。ただし、鋼管矢板工法の地下水環境に及ぼす影響を検討すべきである。また、地震及び津波にかかる防災対策との連携を図り、海岸事業の整備効果を高めること、陸閘については、過度の機械依存及びヒューマンエラーを回避するような運用をすることを求める。

(現在の取組状況)

・地下水に及ぼす影響については、前後地盤を完全に分離しないため、地下水への影響はないと考えております。また、工事実施にあたり、連絡調整を地元と密に行っており、牡蠣の養殖筏などの漁業に対する影響等を与えていないことを確認しています。加えて、工事施工時においても、汚濁防止対策を行い、水質環境への影響に配慮を行っており、苦情等は発生していません。防災対策との連携については、海岸事業の整備効果を高めるため、地元自治会を主体とした防災訓練の実施等、ソフト面での協力をいただいている。陸閘については、志摩市及び地元自治会等に操作委託を行っている中で、年数回の防災訓練を実施しており、その中で操作方法の習熟度合いの確認も含めた開閉点検を行っています。また、三重県でも毎年点検を実施し、常に正常に作動するよう維持管理を行っており、現在のところ問題は発生しておりません。

#### 事業主体の対応方針

三重県公共事業再評価実施要綱第3条の視点を踏まえて再評価を行った結果、同要綱第5条第1項に該当すると判断されるため当事業を継続したいと考えています。

# 的矢港海岸の位置図

